

天草版『エソポのハbras』の助詞の語彙

— 天草版『平家物語』・『平家物語』〈高野本〉との比較を通して —

濱千代 いづみ

キーワード：エソポのハbras 平家物語 助詞 基幹語彙 使用率

1 はじめに

本研究の目的は天草版『エソポのハbras』の助詞の語彙を、天草版『平家物語』・『平家物語』〈高野本〉との比較を通して計量的な観点から分析し、特色を把握することである。この研究に先立ち、平成21年3月に天草版『エソポのハbras』の助詞の語彙を、国字本『伊曾保物語』・天草版『平家物語』との比較を通して計量的な観点から分析し、特色を把握した。平成23年2月には統計上のいろいろな指標を利用して、天草版『エソポのハbras』と天草版『平家物語』の自立語の語彙の豊富さ・語彙の類似度・語彙の偏りをはかり、作品の語彙の傾向を探った。そして、平成23年3月には天草版『エソポのハbras』の自立語の語彙について、各見出し語の使用率を計算し、段階に分けて、作品の骨格的部分をなす語集団という観点から作品の語彙の特色を探求した。これらの成果を踏まえつつ、天草版『エソポのハbras』の助詞の語彙に関して、作品の語彙全部における助詞の語彙量、共時・通時的視点での助詞の存否、作品の骨格的部分をなす助詞の語彙の特色を解明する。

天草版『エソポのハbras』は天草版『平家物語』・天草版『金句集』と合わせ綴じた形で出版され、1593年の総序を持っている。ただし、天草版『エソポのハbras』の扉の刊期は1593年であるが、天草版『平家物語』の扉・序の刊期は1592年である。天正遣欧少年使節がもたらした活版印刷機によって天草学林（コレジヨ）で印刷された。今のところ日本国内で伝存の報告がなく、大英図書館にただ一本が所蔵されている。表記はポルトガル語式の写音法によるローマ字で、日本語が綴られている。『エソポのハbras』はイソップの生涯と数々の寓話とで構成され、それを室町時代末期の話し言葉に翻訳してある。イエズス会の宣教師たちが日本語の学習をするためのテキストとして、また布教の際に引用する拠り所として編集された。また、天草版『平家物語』は古典の『平家物語』を室町時代末期の話し言葉に書き直してあり、物語は喜一検校と右馬の允

の二人が対話する形式で進行する。イエズス会の宣教師たちが日本の言葉と歴史とを学習するためのテキストとして編集された。天草版『平家物語』の原拠として一方流の覚一本が用いられたことが判明している。『平家物語』〈高野本〉は語りの証本を志向した覚一本の中で古態を継承した後期の伝本で、文体は和漢混交文である。以上のような成立事情と作品相互の関連から、天草版『エソポのハブラス』の助詞の語彙の特色を考察するのに、天草版『平家物語』・『平家物語』〈高野本〉と比較を行うのは意義あることと判断する。

天草版『エソポのハブラス』及び天草版『平家物語』は「扉・序・物語の本文・目録」の四部によって構成されている。このうちの物語の本文に使用されている助詞を対象に取り上げる。計量には次の文献を利用し、単語の認定の基準を合わせた。

- a 『エソポのハブラス本文と総索引』
- b 『天草版平家物語語彙用例総索引』
- c 『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』（付属語篇）

天草版『エソポのハブラス』及び天草版『平家物語』からの本文の引用は漢字仮名交じりに直して示す。cは新日本古典文学大系『平家物語』をもとに作成してあるので、その本文に基づいて引用する。

また、次の略称を用いる。

- 〈エソポ〉〈エ〉・・・天草版『エソポのハブラス』
- 〈ヘイケ〉〈へ〉・・・天草版『平家物語』
- 〈高野本〉〈高〉・・・『平家物語』〈高野本〉

2 助詞の語彙の全体像

2.1 助詞の異なり語数と延べ語数

〈エソポ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉の本文に用いられている助詞について、異なり語数・延べ語数を計量し、1語あたりの使用度数を計算して示すと表1ようになる。

表1 助詞の異なり語数と延べ語数

文献	〈エソポ〉	〈ヘイケ〉	〈高野本〉
異なり語数	57	83	86
延べ語数	7726	32146	56468
1語あたりの使用度数	135.54	387.30	656.60

〈エソポ〉 〈ヘイケ〉 〈高野本〉 の物語の本文の語彙について異なり語数・延べ語数を示すと表2のようになる。

表2 〈エソポ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉の語彙量

文献		〈エソポ〉	〈ヘイケ〉	〈高野本〉
異なり語数	自立語	2904	7421	14784
	付属語（助動詞）	27	41	37
	付属語（助詞）	57	83	86
	全体	2988	7545	14907
延べ語数	自立語	11751	46913	99396
	付属語（助動詞）	1957	11338	20131
	付属語（助詞）	7726	32146	56468
	全体 ^{（注1）}	21434	90397	175995
1語あたりの使用度数	自立語	4.05	6.32	6.72
	付属語（助動詞）	72.48	276.54	544.08
	付属語（助詞）	135.54	387.30	656.60
	全体	7.17	11.97	11.80

ここで、作品の規模と助詞の使用との関係を考えてみよう。延べ語数全体が作品の規模を表すと設定する。〈エソポ〉の延べ語数全体を1とすると〈ヘイケ〉は4.2、〈高野本〉は8.2になる。〈ヘイケ〉は〈エソポ〉の4.2倍、〈高野本〉は〈エソポ〉の8.2倍の規模の作品ということになる。同様の方法で延べ語数の各項目について計算する。〈エソポ〉の自立語の延べ語数1に対して〈ヘイケ〉は4.0、〈高野本〉は8.5になる。〈エソポ〉の助動詞の延べ語数1に対して〈ヘイケ〉は5.8、〈高野本〉は10.3になる。〈エソポ〉の助詞の延べ語数1に対して〈ヘイケ〉は4.2、〈高野本〉は7.3になる。

表3 作品の規模と自立語・助動詞・助詞の使用

作品	〈エソポ〉	〈ヘイケ〉	〈高野本〉
作品の規模（延べ語数全体）	1	4.2	8.2
自立語	1	4.0	8.5
助動詞	1	5.8	10.3
助詞	1	4.2	7.3

自立語の数値は作品の規模にほぼ比例する。しかし、助動詞の数値は作品の規模に比較して〈ヘイケ〉〈高野本〉ともにはるかに大きい。それゆえ〈エソボ〉は〈ヘイケ〉〈高野本〉に比べて助動詞の使用が少ない。〈エソボ〉の助動詞の語彙を計量したときには〈エソボ〉と〈ヘイケ〉のページ数によって作品の規模を判断し、作品の規模と助動詞の使用との関係を見た。その結果と、今回の延べ語数全体の結果とは一致する。助動詞の数値は〈エソボ〉と〈ヘイケ〉が作品の規模に一致するが、〈高野本〉はやや小さい。〈エソボ〉は〈ヘイケ〉と同じ程度に助動詞を使用しているが、〈高野本〉に比べて助動詞の使用量が増加している。この点は日本語の変遷の中で鎌倉・室町時代に助動詞の使用が増えたことを数値に反映しているといえる。

以上、作品の規模と助動詞の使用との関係で〈エソボ〉の助動詞を〈ヘイケ〉〈高野本〉と比較した。その結果をまとめると次のようである。

- (a) 〈エソボ〉は〈ヘイケ〉と同じ程度に助動詞を使用しているが、〈高野本〉に比べて助動詞の使用量が増加している。これは日本語の変遷の中で鎌倉・室町時代に助動詞の使用が増えたことを反映している。

また、次の点が確認できた。

- (b) 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉では作品の規模と自立語の使用に相関関係がある。
(c) 〈エソボ〉は〈ヘイケ〉〈高野本〉に比べて助動詞の使用が少ない。

2.2 助詞の使用語彙

〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉の物語の本文に用いられている助詞の語彙を五十音順に並べて番号を付け、主たる機能と見出しの助詞の有無を表した。次に〈エソボ〉に存するものを上位に取り出し、〈エソボ〉に存しないものを下位に置いた。それを一覧表に整えたのが表4である。なお、原則として『日本文法大辞典』の「語彙項目一覧」の助詞の部にあるものを助詞と認定し、「語彙項目一覧」で機能の別の記述がないものを複合語・形式名詞に分類した。

【主たる機能】

格助詞 接続助詞 副助詞 係助詞 終助詞 間投助詞 複合語 形式名詞

【見出しの助詞の有無】

見出しの助詞の存する場合・・・○

見出しの助詞の存しない場合・・・×

この表には学習研究社発行『完訳用例古語辞典』（[学研古語]と略す）、三省堂発行『例解古語辞典』（[三省古語]と略す）における助詞の揭示状況も併せて示す。古典語

の学校文法は平安時代語に基づいており、これらの古語辞典は古典語の学校文法を整理して載せている。

【古語辞典の見出しの助詞の有無】

巻末付録の一覧表に見出しの助詞の存する場合・・・○

巻末付録の一覧表に見出しの助詞は存しないが、本文に存する場合・・・△

巻末付録の一覧表にも、本文にも見出しの助詞の存しない場合・・・×

表4 〈エソボ〉 〈ヘイケ〉 〈高野本〉の助詞の使用語彙

番号	見出し語	主たる機能	エソボ	ヘイケ	高野本	学研古語	三省古語
4	か	係助詞	○	○	○	○	○
5	が	格助詞	○	○	○	○	○
6	かし	終助詞	○	○	○	○	○
8	がな	副助詞	○	○	○	○	○
9	かな(詠嘆)	終助詞	○	○	○	○	○
10	かは	係助詞	○	○	○	○	△
17	こそ	係助詞	○	○	○	○	○
19	さへ	副助詞	○	○	○	○	○
21	して	接続助詞	○	○	○	○	○
23	ずんば	複合語	○	○	○	△	△
24	ぞ	係助詞	○	○	○	○	○
25	そ(禁止)	終助詞	○	○	○	○	○
33	づつ	副助詞	○	○	○	△	△
34	て	接続助詞	○	○	○	○	○
35	で	格助詞	○	○	○	△	×
37	と	格助詞	○	○	○	○	○
39	といふとも	複合語	○	○	○	×	×
41	といへども	複合語	○	○	○	×	×
44	ところに	接続助詞	○	○	○	×	×
45	として	複合語	○	○	○	△	×
46	とて	格助詞	○	○	○	△	○
47	とも	接続助詞	○	○	○	○	○
48	ども	接続助詞	○	○	○	○	○
52	な(禁止)	終助詞	○	○	○	○	○
54	ながら	接続助詞	○	○	○	○	○
58	に	格助詞	○	○	○	○	○
59	において	複合語	○	○	○	△	×
63	の	格助詞	○	○	○	○	○
64	のみ	副助詞	○	○	○	○	○
65	は	係助詞	○	○	○	○	○
66	ば	接続助詞	○	○	○	○	○
67	ばかり	副助詞	○	○	○	○	○
68	ばし	副助詞	○	○	○	△	○
69	ばや	終助詞	○	○	○	○	○
70	へ	格助詞	○	○	○	○	○

番号	見出し語	主たる機能	エソボ	ヘイケ	高野本	学研古語	三省古語
72	ほど	副助詞	○	○	○	△	×
73	ほどに	接続助詞	○	○	○	△	△
74	まで	副助詞	○	○	○	○	○
76	も	係助詞	○	○	○	○	○
78	ものか	終助詞	○	○	○	△	△
79	ものかな	終助詞	○	○	○	△	△
84	ものを	終助詞	○	○	○	○	○
85	や	係助詞	○	○	○	○	○
91	よ	間投助詞	○	○	○	○	○
94	より	格助詞	○	○	○	○	○
95	よりして	複合語	○	○	○	×	×
96	を	格助詞	○	○	○	○	○
98	をば	複合語	○	○	○	△	△
99	をもって	複合語	○	○	○	×	×
2	いで (打消)	接続助詞	○	○	×	△	×
11	から	格助詞	○	○	×	○	○
43	ところで	接続助詞	○	○	×	×	×
55	など	副助詞	○	○	×	○	○
56	なりとも	複合語	○	○	×	×	×
62	によつて	複合語	○	○	×	×	×
88	やら	副助詞	○	○	×	△	△
14	けれども	接続助詞	○	×	×	×	×
1	あひだ	形式名詞	×	○	○	△	△
3	うへ	形式名詞	×	○	○	△	△
20	し	副助詞	×	○	○	○	○
22	しも	副助詞	×	○	○	○	○
26	だに	副助詞	×	○	○	○	○
27	だにあるに	複合語	×	○	○	×	×
32	つつ	接続助詞	×	○	○	○	○
36	で (打消)	接続助詞	×	○	○	○	○
38	ど	接続助詞	×	○	○	○	○
42	とかや	複合語	×	○	○	△	△
49	とものがな	複合語	×	○	○	△	△
50	とよ	複合語	×	○	○	△	△
51	な	間投助詞	×	○	○	○	○
57	なんど	副助詞	×	○	○	○	△
61	にて	格助詞	×	○	○	○	○
75	まれ	複合語	×	○	○	△	△
82	ものゆゑ	接続助詞	×	○	○	○	○
83	ものゆゑに	接続助詞	×	○	○	○	○
90	やらん	副助詞	×	○	○	△	△
93	よな	間投助詞	×	○	○	△	○
12	からして	複合語	×	○	×	×	×
30	ちやは	複合語	×	○	×	×	×
53	なう	終助詞	×	○	×	△	△
77	もがな	終助詞	×	○	×	○	○
80	ものかは	終助詞	×	○	×	△	△

番号	見出し語	主たる機能	エソボ	ヘイケ	高野本	学研古語	三省古語
86	やな	終助詞	×	○	×	△	×
100	をもて	複合語	×	○	×	△	×
7	がてら	副助詞	×	×	○	△	○
13	からに	接続助詞	×	×	○	△	○
15	ござんなれ	複合語	×	×	○	△	△
16	ござんめれ	複合語	×	×	○	△	△
18	ごとくんば	複合語	×	×	○	×	×
28	だも	副助詞	×	×	○	△	△
29	ちやう	形式名詞	×	×	○	△	△
31	つ	格助詞	×	×	○	△	△
40	といへど	複合語	×	×	○	×	×
60	にして	複合語	×	×	○	△	△
71	べくんば	複合語	×	×	○	×	×
81	ものの	接続助詞	×	×	○	○	○
87	やは	係助詞	×	×	○	○	△
89	やらう	終助詞	×	×	○	△	△
92	よう	間投助詞	×	×	○	×	×
97	をして	複合語	×	×	○	△	×
101	をや	終助詞	×	×	○	△	△

〈エソボ〉に存する助詞は「か」から「けれども」までの57語である。このうち、〈エソボ〉にのみ存し、〈ヘイケ〉〈高野本〉と〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表および本文に存しないの(×)は「けれども」1語である。その他の助詞は〈エソボ〉〈ヘイケ〉に共通に存している。その中で〈高野本〉に存せず、〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表にも存しないの(△または×)は、「いで」「ところで」「なりとも」「によつて」「やら」の5語である。これらの助詞は、室町時代末期の口語的文脈で用いられた語群といえる。

〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉に共通に存するのは「か」から「をもつて」までの50語である。これらは「で(格助詞)」「ところに」のように〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表に存しない場合(△または×)もあるが、鎌倉時代から室町時代末期にかけて用いられた語群といえる。その中でも「て」「に」のように〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表に存するの(○)は、平安時代から用いられていた語群である。

〈エソボ〉に存しない助詞は「あひだ」から「をや」までの44語である。このうち、〈ヘイケ〉〈高野本〉と〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表には存する(○)のに、〈エソボ〉に存しない(×)助詞は、「し」「しも」「だに」「つつ」「で(打消)」「ど」「な(間投助詞)」「にて」「ものゆゑ」「ものゆゑに」の10語である。これらは室町時代末期の口語的文脈で用いられなくなった語群である。〈ヘイケ〉の作者はその序文で『平家物語』を室町時代末期の話し言葉に書き直した旨を述べているが、実際にはか

なり原抛の言葉をそのままに残している。そのため、〈ヘイケ〉の助詞には室町時代末期に口語的文脈で用いられなくなっていたものも含まれる。

以上、〈エソボ〉に存する助詞を〈ヘイケ〉〈高野本〉[学研古語][三省古語]と比較した。その結果をまとめると次のようである。

- (a) 「けれども」のように〈エソボ〉にのみ存し、〈ヘイケ〉〈高野本〉と[学研古語][三省古語]の巻末付録の一覧表および本文に存しない助詞、「いで」のように〈エソボ〉〈ヘイケ〉には存するが、〈高野本〉と[学研古語][三省古語]の巻末付録の一覧表に存しない助詞は、室町時代末期の口語的文脈で用いられた語群である。
- (b) 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉に共通に存する助詞は、鎌倉時代から室町時代末期にかけて用いられた語群である。その中でも「て」「に」のように[学研古語][三省古語]の巻末付録の一覧表に存するものは、平安時代から用いられていた語群である。
- (c) 「し」「で(打消)」のように、〈ヘイケ〉〈高野本〉と[学研古語][三省古語]の巻末付録の一覧表には存するのに〈エソボ〉に存しない助詞は、室町時代末期の口語的文脈で用いられなくなった語群である。

3 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉の助詞の使用度数と基幹語彙

3.1 〈エソボ〉の助詞の使用度数と基幹語彙

これから〈エソボ〉の助詞の語彙に関して、各助詞の使用度数を計量し、使用率を計算して「基幹語彙」を認定していく。〈ヘイケ〉〈高野本〉の助詞についても同じ基準で行う。この基幹語彙とは、ある言語資料を対象とした語彙調査を行った場合に得られる、骨格の部分集団を指し、使用率の高い語がその資料の基幹語になる。〈エソボ〉の助動詞の語彙を考察したときには、使用率によって語を位置づけ、使用率が50.00パーミル以上の語を第一基幹語彙、10.00パーミル以上50.00パーミル未満の語を第二基幹語彙に設定した。また、〈エソボ〉の自立語の語彙を考察したときには、作品の異なり語数の多少にかかわらず、一定の使用率以上の語数にあまり違いがなかったので、使用度数の上位50語を第一基幹語彙、51位以下で使用率が1.00パーミル以上の語を第二基幹語彙に設定した。

今回〈エソボ〉の助詞の語彙を考察するにあたり、助動詞と同様に使用率によって語を位置づけることにし、分類の基準を見直した。10.00パーミル以上の分類は助動詞で設定した基準と同じである。それより下位の分類は10.00パーミルを基本にして、5.00、2.50、1.25、0.625のように数値を順に半分にしていく。設定した基準を示すと次のよう

になる。

(K 1) ランク	$50.00 \leq \alpha$
(K 2) ランク	$10.00 \leq \alpha < 50.00$
(K 3) ランク	$5.00 \leq \alpha < 10.00$
(A) ランク	$2.50 \leq \alpha < 5.00$
(B) ランク	$1.25 \leq \alpha < 2.50$
(C) ランク	$0.625 \leq \alpha < 1.25$
(D) ランク	$0.00 < \alpha < 0.625$
「不使用」	$\alpha = 0.00$

α の単位はパーミル(‰)

助動詞の場合は上記の(K 1) ランクの範囲を第一基幹語彙、(K 2) ランクの範囲を第二基幹語彙にした。この範囲で助動詞全体の970パーミル近くを占めたからである。しかし、助詞の場合、この範囲では900パーミルに至らない。そこで、今回の助詞では(K 3) ランクまでを基幹語彙に含め、(K 3) ランクの範囲を第三基幹語彙にする。

〈エソポ〉の助詞を使用度数の多いものから順に整列し、使用度数と使用率、累積使用度数と累積使用率、ランクを示すと表5のようになる。比較のために〈ヘイケ〉〈高野本〉の助詞の使用度数と使用率とを付した。

表5において(K 1) ランクは、順位1の「を」から順位7の「も」までの7語である。これらの使用度数はきわめて多く、使用率も高い。累積使用度数は5907で、助詞全体の765パーミルに相当する。また(K 2) ランクは、順位8の「が」から順位12の「ども」までの5語である。(K 2) ランクまでの累積使用度数は6923で、助詞全体の896パーミルに相当する。そして、(K 3) ランクは順位13の「へ」から順位19の「ところで」までの7語である。(K 3) ランクまでの累積使用度数は7343で、助詞全体の950パーミルに相当する。これを〈エソポ〉の助詞の基幹語彙と認める。

以上、〈エソポ〉の助詞の語彙を考察するのに基幹語彙という観点をうい、基準を設定し、基幹語彙を抽出した。その結果をまとめると次のようである。

- (a) 〈エソポ〉の助詞の基幹語彙として使用率5.00パーミル以上の「を」「て」「の」など19語を認める。これらは助詞全体の950パーミルに相当し、〈エソポ〉という作品の骨格的部分にあたる語群である。

表5 〈エンボ〉の助詞の使用度数と使用率

番号	見出し語	主たる機能	エ 順位	エ 度数	エ 千分率	エ累積 度数	エ累積 率	エ ランク	へ 度数	へ 千分率	へ ランク	高 度数	高 千分率	高 ランク
96	を	格助詞	1	1138	147.295	1138	147.295	K 1	3656	113.731	K 1	5869	103.935	K 1
34	て	接続助詞	2	967	125.162	2105	272.457	K 1	4427	137.715	K 1	6649	117.748	K 1
63	の	格助詞	3	949	122.832	3054	395.289	K 1	4263	132.614	K 1	9849	174.417	K 1
58	に	格助詞	4	882	114.160	3936	509.449	K 1	3541	110.154	K 1	7282	128.958	K 1
37	と	係助詞	5	815	105.488	4751	614.937	K 1	2886	89.778	K 1	4685	82.967	K 1
65	は	格助詞	6	763	98.757	5514	713.694	K 1	2830	88.036	K 1	3829	67.808	K 1
76	も	係助詞	7	393	50.867	5907	764.561	K 1	2121	65.980	K 1	3393	60.087	K 1
5	が	格助詞	8	353	45.690	6260	810.251	K 2	1391	43.271	K 2	1291	22.863	K 2
66	ば	接続助詞	9	350	45.302	6610	855.553	K 2	1719	53.475	K 1	2424	42.927	K 2
25	ぞ	係助詞	10	131	16.956	6741	872.508	K 2	406	12.630	K 2	1644	29.114	K 2
62	によって	複合語	11	103	13.332	6844	885.840	K 2	198	6.159	K 3	0	0	0
48	ども	接続助詞	12	79	10.225	6923	896.065	K 2	411	12.785	K 2	664	11.759	K 2
70	へ	格助詞	13	72	9.319	6995	905.384	K 3	733	22.802	K 2	1211	21.446	K 2
98	をば	複合語	14	69	8.931	7064	914.315	K 3	251	7.808	K 3	459	8.128	K 3
11	から	格助詞	15	66	8.543	7130	922.858	K 3	242	7.528	K 3	0	0	0
4	か	係助詞	16	59	7.637	7189	930.494	K 3	377	11.728	K 2	387	6.853	K 3
94	より	格助詞	17	58	7.507	7247	938.002	K 3	102	3.173	A	696	12.326	K 2
2	いで	接続助詞	18	52	6.731	7299	944.732	K 3	108	3.360	A	0	0	0
43	ところ	接続助詞	19	44	5.695	7343	950.427	K 3	61	1.898	B	0	0	0
35	で	格助詞	20	32	4.142	7375	954.569	A	363	11.292	K 2	198	3.506	A
99	をもって	複合語	20	32	4.142	7407	958.711	A	32	0.995	C	103	1.894	B
17	こそ	係助詞	22	27	3.495	7434	962.206	A	372	11.572	K 2	1024	18.134	K 2
51	な	終助詞	22	27	3.495	7461	965.700	A	34	1.058	C	43	0.761	C
67	ばかり	副助詞	24	26	3.365	7487	969.065	A	161	5.008	K 3	246	4.356	A
44	ところに	接続助詞	25	25	3.236	7512	972.301	A	73	2.271	B	92	1.629	B
47	とも	接続助詞	26	21	2.718	7533	975.019	A	172	2.240	B	133	2.355	B
46	と	格助詞	27	20	2.589	7553	977.608	A	132	4.106	A	990	17.532	K 2
72	ほど	副助詞	28	19	2.459	7572	980.067	B	76	2.364	B	74	1.310	B
73	ほどに	接続助詞	29	14	1.812	7586	981.879	B	107	3.329	A	109	1.930	B
8	かな	終助詞	30	13	1.683	7599	983.562	B	35	1.089	C	74	1.310	B
74	まで	副助詞	31	12	1.553	7611	985.115	B	168	5.226	K 3	292	5.171	K 3
6	かし	終助詞	31	12	1.553	7623	986.668	B	29	0.902	C	70	1.240	C
55	など	副助詞	33	10	1.294	7633	987.963	B	132	4.106	A	0	0	0

番号	見出し語	主たる機能	エ順位	エ度数	エ千分率	エ累積度数	エ累積率	エランク	エ度数	エ千分率	エランク	高千分率	高ランク	
52	な	間投助詞		0					3	0.093	D	0.266	D	
32	つつ	接続助詞		0					2	0.062	D	1.700	B	
42	とかや	複合語		0					2	0.062	D	0.638	C	
50	とよ	複合語		0					2	0.062	D	0.248	D	
75	まれ	複合語		0					2	0.062	D	0.053	D	
83	ものゆゑに	接続助詞		0					2	0.062	D	0.053	D	
86	やな	終助詞		0					2	0.062	D			
90	やらん	副助詞		0					1	0.031	D	1.558	B	
38	ど	接続助詞		0					1	0.031	D	0.372	D	
27	だにあるに	複合語		0					1	0.031	D	4	0.071	D
20	し	副助詞		0					1	0.031	D	3	0.053	D
93	よな	間投助詞		0					1	0.031	D	3	0.053	D
49	ともがな	複合語		0					1	0.031	D	1	0.018	D
82	ものゆゑ	接続助詞		0					1	0.031	D	1	0.018	D
77	もがな	終助詞		0					1	0.031	D	0		
80	ものかは	終助詞		0					1	0.031	D	0		
100	をもて	複合語		0					1	0.031	D	0		
60	にして	複合語		0					0			37	0.655	C
15	ごさんなれ	複合語		0					0			13	0.230	D
101	をや	終助詞		0					0			12	0.213	D
87	やは	係助詞		0					0			4	0.071	D
13	からに	接続助詞		0					0			3	0.053	D
16	ごさんめれ	複合語		0					0			2	0.035	D
29	ちやう	形式名詞		0					0			2	0.035	D
89	やらう	終助詞		0					0			2	0.035	D
7	がてら	副助詞		0					0			1	0.018	D
18	ごどくんば	複合語		0					0			1	0.018	D
28	だも	副助詞		0					0			1	0.018	D
31	つ	格助詞		0					0			1	0.018	D
40	といへど	複合語		0					0			1	0.018	D
71	べくんば	複合語		0					0			1	0.018	D
81	ものの	接続助詞		0					0			1	0.018	D
92	よう	間投助詞		0					0			1	0.018	D
97	をして	複合語		0					0			1	0.018	D

3.2 〈ヘイケ〉の助詞の使用度数と基幹語彙

〈ヘイケ〉の助詞を使用度数の多いものから順に整列し、使用度数と使用率、累積使用度数と累積使用率、ランクを示すと表6のようになる。

表6において(K1)ランクは、順位1の「て」から順位8の「ば」までの8語である。その累積使用度数は25443で、助詞全体の791パーミルに相当する。また(K2)ランクは、順位9の「が」から順位15の「で」までの7語である。(K2)ランクまでの累積使用度数は29496で、助詞全体の918パーミルに相当する。そして、(K3)ランクは順位16の「をば」から順位20の「ばかり」までの5語である。(K3)ランクまでの累積使用度数は30516で、助詞全体の949パーミルに相当する。これを〈ヘイケ〉の助詞の基幹語彙と認める。

3.3 〈高野本〉の助詞の使用度数と基幹語彙

〈高野本〉の助詞を使用度数の多いものから順に整列し、使用度数と使用率、累積使用度数と累積使用率、ランクを示すと表7のようになる。

表7において(K1)ランクは、順位1の「の」から順位7の「も」までの7語である。その累積使用度数は41556で、助詞全体の736パーミルに相当する。また(K2)ランクは、順位8の「ば」から順位16の「や」までの9語である。(K2)ランクまでの累積使用度数は52067で、助詞全体の922パーミルに相当する。そして、(K3)ランクは順位17の「をば」から順位20の「まで」までの4語である。(K3)ランクまでの累積使用度数は53561で、助詞全体の949パーミルに相当する。これを〈高野本〉の助詞の基幹語彙と認める。

表6 〈ハイケ〉の助詞の使用度数と使用率

番号	見出し語	主たる機能	エ 度数	エ 千分率	エ ランク	ハ 順位	ハ 度数	ハ 千分率	ハ 累積 度数	ハ 累積 率	ハ ランク	高 度数	高 千分率	高 ランク
34	て	接続助詞	967	125.162	K 1	1	4427	137.720	4427	137.715	K 1	6649	117.748	K 1
63	の	格助詞	949	122.832	K 1	2	4263	132.614	8690	270.329	K 1	9849	174.417	K 1
96	を	格助詞	1138	147.295	K 1	3	3656	113.731	12346	384.060	K 1	5869	103.935	K 1
58	に	格助詞	882	114.160	K 1	4	3541	110.154	15887	494.214	K 1	7282	128.958	K 1
65	は	係助詞	815	105.488	K 1	5	2886	89.778	18773	583.992	K 1	4685	82.967	K 1
37	と	格助詞	763	98.757	K 1	6	2830	88.036	21603	672.028	K 1	3829	67.808	K 1
76	も	係助詞	393	50.867	K 1	7	2121	65.980	23724	738.008	K 1	3393	60.087	K 1
66	ば	接続助詞	350	45.302	K 2	8	1719	53.475	25443	791.483	K 1	2424	42.937	K 2
5	が	格助詞	353	45.690	K 2	9	1391	43.271	26834	834.754	K 2	1291	22.863	K 2
70	へ	格助詞	72	9.319	K 3	10	733	22.802	27567	857.556	K 2	1211	21.446	K 2
48	ども	接続助詞	79	10.225	K 2	11	411	12.785	27978	870.342	K 2	664	11.759	K 2
25	ぞ	係助詞	131	16.956	K 2	12	406	12.630	28384	882.971	K 2	1644	29.114	K 2
4	か	係助詞	59	7.637	K 3	13	377	11.728	28761	894.699	K 2	387	6.853	K 3
17	こそ	係助詞	27	3.495	A	14	372	11.572	29133	906.271	K 2	1024	18.134	K 2
35	で	格助詞	32	4.142	A	15	363	11.292	29496	917.564	K 2	198	3.506	A
98	をば	複合語	69	8.931	K 3	16	251	7.808	29747	925.372	K 3	459	8.128	K 3
11	から	格助詞	66	8.543	K 3	17	242	7.528	29889	932.900	K 3	0		
62	によつて	複合語	103	13.332	K 2	18	198	6.159	30187	939.059	K 3	0		
74	まで	副助詞	12	1.553	B	19	168	5.226	30355	944.285	K 3	292	5.171	K 3
67	ばかり	副助詞	26	3.365	A	20	161	5.008	30516	949.294	K 3	246	4.356	A
46	とて	格助詞	20	2.589	A	21	132	4.106	30648	953.400	A	990	17.532	K 2
55	など	副助詞	10	1.294	B	22	132	4.106	30780	957.506	A	0		
85	や	係助詞	7	0.906	C	23	120	3.733	30900	961.239	A	567	10.041	K 2
2	いで	接続助詞	52	6.731	K 3	24	108	3.360	31008	964.599	A	0		
73	ほどに	接続助詞	14	1.812	B	25	107	3.329	31115	967.928	A	109	1.930	B
94	より	格助詞	58	7.507	K 3	26	102	3.173	31217	971.101	A	696	12.326	K 2
72	ほど	副助詞	19	2.459	B	27	76	2.364	31293	973.465	B	74	1.310	B
44	とところに	接続助詞	25	3.236	A	28	73	2.271	31366	975.736	B	92	1.629	B
47	とも	接続助詞	21	2.718	A	29	72	2.240	31438	977.975	B	133	2.555	B
91	よ	間投助詞	7	0.906	C	30	62	1.929	31500	979.904	B	69	1.222	C
43	とところで	接続助詞	44	5.695	K 3	31	61	1.898	31561	981.802	B	0		
19	さへ	副助詞	7	0.906	C	32	54	1.680	31615	983.482	B	21	0.372	D
84		終助詞	8	1.035	C	33	48	1.493	31663	984.975	B	68	1.204	C

番号	見出し語	主たる機能	エ 度 数	エ 千 分 率	エ ラ ン ク	順 位	度 数	千 分 率	積 度 数	積 率	ラ ン ク	高 度 数	高 千 分 率	高 ラ ン ク
21	して	接続助詞	5	0.647	C	34	37	1.151	31700	986.126	C	191	3.382	A
54	ながら	接続助詞	1	0.129	D	34	37	1.151	31737	987.277	C	82	1.452	B
8	かな	終助詞	13	1.683	B	36	35	1.089	31772	988.366	C	74	1.310	B
51	な	終助詞	27	3.495	A	37	34	1.058	31806	989.423	C	43	0.761	C
99	をもつて	複合語	32	4.142	A	38	32	0.995	31838	990.419	C	103	1.824	B
64	のみ	副助詞	6	0.777	C	39	30	0.933	31868	991.352	C	48	0.850	C
6	かし	終助詞	12	1.553	B	40	29	0.902	31897	992.254	C	70	1.240	C
3	うへ	形式名詞	1	0.129	D	41	26	0.809	31923	993.063	C	57	1.009	C
56	なりとも	複合語	1	0.129	D	42	21	0.653	31944	993.716	C	0		
59	なりにおいて	複合語	8	1.035	C	43	20	0.622	31964	994.338	D	33	0.584	D
88	やら	副助詞	2	0.259	D	44	17	0.529	31981	994.867	D	0		
24	そ	終助詞	2	0.259	D	45	16	0.498	31997	995.365	D	24	0.425	D
79	ものか	終助詞	4	0.518	D	46	13	0.404	32010	995.769	D	30	0.531	D
57	なんぞ	副助詞	0			47	11	0.342	32021	996.111	D	196	3.471	A
26	だに	副助詞	0			48	9	0.280	32030	996.391	D	89	1.576	B
30	ぢや	複合語	0			48	9	0.280	32039	996.671	D	0		
41	といへども	複合語	5	0.647	C	50	8	0.249	32047	996.920	D	68	1.204	C
36	で	接続助詞	0			50	8	0.249	32055	997.169	D	94	1.665	B
69	ば	終助詞	3	0.388	D	52	7	0.218	32062	997.387	D	81	1.434	B
10	かは	保助詞	3	0.388	D	52	7	0.218	32069	997.605	D	37	0.655	C
45	かとして	複合語	6	0.777	C	54	6	0.187	32075	997.791	D	33	0.584	D
78	ものか	終助詞	1	0.129	D	54	6	0.187	32081	997.978	D	1	0.018	D
61	にて	格助詞	0			54	6	0.187	32087	998.165	D	356	6.304	K ³
95	よりして	複合語	2	0.259	D	57	5	0.156	32092	998.320	D	19	0.336	D
22	しも	副助詞	0			57	5	0.156	32097	998.476	D	19	0.336	D
53	なう	終助詞	0			57	5	0.156	32102	998.631	D	0		
39	といふとも	複合語	7	0.906	C	60	4	0.124	32106	998.756	D	16	0.283	D
12	からして	複合語	0			60	4	0.124	32110	998.880	D	0		
33	づつ	副助詞	3	0.388	D	62	3	0.093	32113	998.973	D	12	0.213	D
1	あひだ	形式名詞	0			62	3	0.093	32116	999.067	D	99	1.753	B
52	な	間投助詞	0			62	3	0.093	32119	999.160	D	15	0.266	D
23	ずんば	複合語	1	0.129	D	65	2	0.062	32121	999.222	D	4	0.071	D
68	ばし	副助詞	1	0.129	D	65	2	0.062	32123	999.285	D	1	0.018	D
32	つつ	接続助詞	0			65	2	0.062	32125	999.347	D	96	1.700	B

番号	見出し語	主たる機能	エ 度数	エ 千分率	エ ランク	順位	度 数	千 分率	累 積 度 数	累 積 率	ラ ン ク	高 度 数	高 千 分 率	高 ラ ン ク
42	とかや	複合語	0			65	2	0.062	32127	999.409	D	36	0.638	C
50	とよ	複合語	0			65	2	0.062	32129	999.471	D	14	0.248	D
75	まれ	複合語	0			65	2	0.062	32131	999.533	D	3	0.053	D
83	ものゆゑに	接続助詞	0			65	2	0.062	32133	999.596	D	3	0.053	D
86	やな	終助詞	0			65	2	0.062	32135	999.658	D	0		
9	がな	副助詞	1	0.129	D	73	1	0.031	32136	999.689	D	1	0.018	D
90	やらん	副助詞	0			73	1	0.031	32137	999.720	D	88	1.558	B
38	ど	接続助詞	0			73	1	0.031	32138	999.751	D	21	0.372	D
27	だにあるに	複合語	0			73	1	0.031	32139	999.782	D	4	0.071	D
20	し	副助詞	0			73	1	0.031	32140	999.813	D	3	0.053	D
93	よな	間投助詞	0			73	1	0.031	32141	999.844	D	3	0.053	D
49	ともがな	複合語	0			73	1	0.031	32142	999.876	D	1	0.018	D
82	ものゆゑ	接続助詞	0			73	1	0.031	32143	999.907	D	1	0.018	D
77	もがな	終助詞	0			73	1	0.031	32144	999.938	D	0		
80	ものかは	終助詞	0			73	1	0.031	32145	999.969	D	0		
100	もて	複合語	0			73	1	0.031	32146	1000	D	0		
14	けれども	接続助詞	1	0.129	D		0					0		
60	にして	複合語	0				0					37	0.655	C
15	ごさんなれ	複合語	0				0					13	0.230	D
101	をや	終助詞	0				0					12	0.213	D
87	やは	係助詞	0				0					4	0.071	D
13	からに	接続助詞	0				0					3	0.053	D
16	ごさんめれ	複合語	0				0					2	0.035	D
29	ぢやう	形式名詞	0				0					2	0.035	D
89	やらう	終助詞	0				0					2	0.035	D
7	がてら	副助詞	0				0					1	0.018	D
18	ごとくんば	複合語	0				0					1	0.018	D
28	だも	副助詞	0				0					1	0.018	D
31	つ	格助詞	0				0					1	0.018	D
40	といへど	複合語	0				0					1	0.018	D
71	べくんば	複合語	0				0					1	0.018	D
81	ものの	接続助詞	0				0					1	0.018	D
92	よう	間投助詞	0				0					1	0.018	D
97	をして	複合語	0				0					1	0.018	D

表7 〈高野本〉の助詞の使用度数と使用率

番号	見出し語	主たる機能	エ 度数	エ 千分率	エ ランク	へ 度数	へ 千分率	へ ランク	高 順位	高 度数	高 千分率	高 累積 度数	高 累積 率	高 ランク
53	の	格助詞	949	122.832	K 1	4263	132.614	K 1	1	9849	174.417	9849	174.417	K 1
58	に	格助詞	882	114.160	K 1	3541	110.154	K 1	2	7282	128.958	17131	303.375	K 1
34	て	接続助詞	967	125.162	K 1	4427	137.715	K 1	3	6649	117.748	23780	421.123	K 1
96	を	格助詞	1138	147.295	K 1	3656	113.731	K 1	4	5869	103.935	29649	525.058	K 1
67	は	係助詞	815	105.488	K 1	2886	89.778	K 1	5	4685	82.967	34334	608.026	K 1
37	と	格助詞	763	98.757	K 1	2830	88.036	K 1	6	3829	67.808	38163	675.834	K 1
76	も	係助詞	393	50.867	K 1	2121	65.980	K 1	7	3393	60.087	41556	735.921	K 1
66	ば	接続助詞	350	45.302	K 2	1719	53.475	K 1	8	2424	42.927	43980	778.848	K 2
25	ぞ	係助詞	131	16.956	K 2	406	12.630	K 2	9	1644	29.114	45624	807.962	K 2
5	が	格助詞	353	45.690	K 2	1391	43.271	K 2	10	1291	22.863	46915	830.825	K 2
70	へ	格助詞	72	9.319	K 3	733	22.802	K 2	11	1211	21.446	48126	852.270	K 2
17	こそ	係助詞	27	3.495	A	372	11.572	K 2	12	1024	18.134	49150	870.404	K 2
46	とて	格助詞	20	2.589	A	132	4.106	A	13	990	17.532	50140	887.937	K 2
94	より	格助詞	58	7.507	K 3	102	3.173	A	14	696	12.326	50836	900.262	K 2
48	ども	接続助詞	79	10.225	K 2	411	12.785	K 2	15	664	11.759	51500	912.021	K 2
85	や	係助詞	7	0.906	C	120	3.733	A	16	567	10.041	52067	922.062	K 2
98	をば	複合語	69	8.931	K 3	251	7.808	K 3	17	459	8.128	52526	930.191	K 3
4	か	係助詞	59	7.637	K 3	377	11.728	K 2	18	387	6.853	52913	937.044	K 3
61	にて	格助詞	0			6	0.187	D	19	356	6.304	53269	943.348	K 3
74	まで	副助詞	12	1.553	B	168	5.226	K 3	20	292	5.171	53561	948.520	K 3
67	ばかり	副助詞	26	3.365	A	161	5.008	K 3	21	246	4.556	53807	952.876	A
35	で	格助詞	32	4.142	A	363	11.292	K 2	22	198	3.506	54005	956.382	A
57	なんて	副助詞	0			11	0.342	D	23	196	3.471	54201	959.853	A
21	して	接続助詞	5	0.647	C	37	1.151	C	24	191	3.382	54392	963.236	A
47	とも	接続助詞	21	2.718	A	72	2.240	B	25	133	2.355	54525	965.591	B
73	ほどに	接続助詞	14	1.812	B	107	3.329	A	26	109	1.930	54634	967.521	B
99	をもつて	複合語	32	4.142	A	32	0.995	C	27	103	1.824	54737	969.345	B
1	あひだ	形式名詞	0			3	0.093	D	28	99	1.753	54836	971.099	B
32	つつ	接続助詞	0			2	0.062	D	29	96	1.700	54932	972.799	B
36	で	接続助詞	0			8	0.249	D	30	94	1.665	55026	974.463	B
44	ところ	接続助詞	25	3.236	A	73	2.271	B	31	92	1.629	55118	976.093	B
26	だに	副助詞	0			9	0.280	D	32	89	1.576	55207	977.669	B
90	やらん	副助詞	0			1	0.031	D	33	88	1.558	55295	979.227	B

番号	見出し語	主たる機能	エ 度数	エ 千分率	ランク	ハ 度数	ハ 千分率	ランク	高 順位	高 度数	高 千分率	高累積 度数	高累積 率	高 ランク
54	ながら	接続助詞	1	0.129	D	37	1.151	C	34	82	1.452	55377	980.679	B
69	ばや	終助詞	3	0.388	D	7	0.218	D	35	81	1.434	55458	982.114	B
72	ほど	副助詞	19	2.459	B	76	2.364	B	36	74	1.310	55532	983.424	B
8	かな	終助詞	13	1.683	B	35	1.089	C	36	74	1.310	55606	984.735	B
6	かし	終助詞	12	1.553	B	29	0.902	C	38	70	1.240	55676	985.974	C
91	よ	間投助詞	7	0.906	C	62	1.929	B	39	69	1.222	55745	987.196	C
84	ものを	終助詞	8	1.035	C	48	1.493	B	40	68	1.204	55813	988.401	C
41	といへども	複合語	5	0.647	C	8	0.249	D	40	68	1.204	55881	989.605	C
3	うへ	形式名詞	1	0.129	D	26	0.809	C	42	57	1.009	55938	990.614	C
64	のみ	副助詞	6	0.777	C	30	0.933	C	43	48	0.850	55986	991.464	C
51	な	終助詞	27	3.495	A	34	1.058	C	44	43	0.761	56029	992.226	C
10	かは	係助詞	3	0.388	D	7	0.218	D	45	37	0.655	56066	992.881	C
60	にして	複合語	0			0			45	37	0.655	56103	993.536	C
42	とかや	複合語	0			2	0.062	D	47	36	0.638	56139	994.174	C
59	において	複合語	8	1.035	C	20	0.622	D	48	33	0.584	56172	994.758	D
45	として	複合語	6	0.777	C	6	0.187	D	48	33	0.584	56205	995.342	D
79	ものかな	終助詞	4	0.518	D	13	0.404	D	50	30	0.531	56235	995.874	D
24	そ	終助詞	2	0.259	D	16	0.498	D	51	24	0.425	56259	996.299	D
19	さへ	副助詞	7	0.906	C	54	1.680	B	53	21	0.372	56280	996.671	D
38	ぞ	接続助詞	0			1	0.031	D	53	21	0.372	56301	997.043	D
95	よりして	複合語	2	0.259	D	5	0.156	D	55	19	0.336	56320	997.379	D
22	しも	副助詞	0			5	0.156	D	55	19	0.336	56339	997.716	D
39	といふども	複合語	7	0.906	C	4	0.124	D	57	16	0.283	56355	997.999	D
52	な	間投助詞	0			3	0.093	D	58	15	0.266	56370	998.265	D
15	とよ	複合語	0			2	0.062	D	59	14	0.248	56384	998.512	D
50	ごさんなれ	複合語	0			0			60	13	0.230	56397	998.743	D
33	つつ	副助詞	3	0.388	D	3	0.093	D	61	12	0.213	56409	998.955	D
101	をや	終助詞	0			0			61	12	0.213	56421	999.168	D
23	ずんば	複合語	1	0.129	D	2	0.062	D	63	4	0.071	56425	999.239	D
27	だにあるに	複合語	0			1	0.031	D	63	4	0.071	56429	999.309	D
87	やは	係助詞	0			0			63	4	0.071	56433	999.380	D
75	まれ	複合語	0			2	0.062	D	66	3	0.053	56436	999.433	D
83	ものゆゑに	接続助詞	0			2	0.062	D	66	3	0.053	56439	999.486	D
20	し	副助詞	0			1	0.031	D	66	3	0.053	56442	999.540	D

番号	見出し語	主たる機能	エ 度数	エ 千分率	エ ランク	ハ 度数	ハ 千分率	ハ ランク	高 順位	高 度数	高 千分率	高 累積 度数	高 累積 率	高 ランク
93	よな	間投助詞	0			1	0.031	D	66	3	0.053	56445	999.593	D
13	からに	接続助詞	0			0			66	3	0.053	56448	999.646	D
16	ござんめれ	複合語	0			0			71	2	0.035	56450	999.681	D
29	ちやう	形式名詞	0			0			71	2	0.035	56452	999.717	D
89	やう	終助詞	0			0			71	2	0.035	56454	999.752	D
68	ものか	終助詞	1	0.129	D	6	0.187	D	74	1	0.018	56455	999.770	D
9	がな	副助詞	1	0.129	D	2	0.062	D	74	1	0.018	56456	999.787	D
49	ともがな	副助詞	1	0.129	D	1	0.031	D	74	1	0.018	56457	999.805	D
82	ものゆゑ	複合語	0			1	0.031	D	74	1	0.018	56458	999.823	D
7	がてら	接続助詞	0			0			74	1	0.018	56459	999.841	D
18	ごとくんば	副助詞	0			0			74	1	0.018	56460	999.858	D
28	だも	複合語	0			0			74	1	0.018	56461	999.876	D
31	つ	副助詞	0			0			74	1	0.018	56462	999.894	D
71	といへど	格助詞	0			0			74	1	0.018	56463	999.911	D
40	べくんば	複合語	0			0			74	1	0.018	56464	999.929	D
81	もの	複合語	0			0			74	1	0.018	56465	999.947	D
92	よう	接続助詞	0			0			74	1	0.018	56466	999.965	D
97	をして	間投助詞	0			0			74	1	0.018	56467	999.982	D
62	によつて	複合語	103	13.332	K 2	198	6.159	K 3	74	1	0.018	56468	1000	D
11	から	格助詞	66	8.543	K 3	242	7.528	K 3		0				
2	いで	接続助詞	52	6.731	K 3	108	3.360	A		0				
43	ところで	接続助詞	44	5.695	K 3	61	1.898	B		0				
55	など	副助詞	10	1.294	B	132	4.106	A		0				
88	やら	副助詞	2	0.259	D	17	0.529	D		0				
56	なりとも	複合語	1	0.129	D	21	0.653	C		0				
14	けれども	接続助詞	1	0.129	D	0				0				
30	ぢや	複合語	0			9	0.280	D		0				
53	なう	終助詞	0			5	0.156	D		0				
12	からして	複合語	0			4	0.124	D		0				
86	やな	終助詞	0			2	0.062	D		0				
77	もがな	終助詞	0			1	0.031	D		0				
80	ものかは	終助詞	0			1	0.031	D		0				
100	をもて	複合語	0			1	0.031	D		0				

4 〈エソボ〉で基幹語彙の助詞

前章では〈エソボ〉の助詞の基幹語彙として19語を認定した。ここではそれらの語の特色を考察する。

〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉で共通に基幹語彙に入る助詞は、〈エソボ〉で(K1) ランクの「を」「て」「の」「に」「は」「と」「も」、(K2) ランクの「が」「ば」「ぞ」「ども」、(K3) ランクの「へ」「をば」「か」の14語である。その中でも〈エソボ〉で(K1) ランクの7語は〈ヘイケ〉〈高野本〉でも同じランクに入り、きわめて使用率の高い語群である。これらの語は鎌倉・室町時代を通して書き言葉としても話し言葉としても頻繁に用いられた。14語のうち「をば」は現代の共通語であまり見られない。現代語で対象を強調する場合には一般に「は」を用いる。しかし、他の13語は現代語でもよく用いる語群である。

〈エソボ〉〈ヘイケ〉で基幹語彙に入るが、〈高野本〉で基幹語彙に入らず2ランク以上離れているのは、「によつて」「から」の2語である。

「によつて」複合語

各作品の使用度数，使用率，ランク

〈エ〉103 13.33% (K2) 〈へ〉198 6.16% (K3) 〈高〉0 不使用

まず、〈高野本〉の使用度数0について触れておく。『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』(付属語篇)には「によつて」が見出し項目として存在しない。先に作成された(自立語篇)で助詞「に」・動詞「よる」・助詞「て」に分割され、「によつて」を一単位として捉えなかったからである。そこで、(自立語篇)の見出し項目「よる」を利用して「によつて」を計量した。すると、〈高野本〉の「によつて」の使用度数が123になり、(B)ランクに入った。この結果は〈エソボ〉〈ヘイケ〉と2ランク以上離れている。室町時代末期に接続助詞的用法の「によつて」が増加していることが判明した。

「から」格助詞

各作品の使用度数，使用率，ランク

〈エ〉66 8.54% (K3) 〈へ〉242 7.53% (K3) 〈高〉0 不使用

「から」に関して、近藤(2002)で〈ヘイケ〉の「から」が多くは〈高野本〉の「より」と対応しており、『平家物語』に起点・経由点などを示す「より」が多く、その大

部分が〈ヘイケ〉で「から」と訳されたという指摘がなされている。〈エソボ〉の「から」も起点・経由点を示すものが多い。しかし、〈ヘイケ〉の「から」はすべて格助詞と認められるが、〈エソボ〉の「から」には接続助詞と認められるものがある。

例1 下心。あまたの人は、わが身に应ぜぬ楽しみを巧むから、一旦その楽しみをも遂ぐれども、その道から落ちて、身をあやまつものぢや。 (〈エ〉488-9)

〈エソボ〉で基幹語彙に入るが、〈ヘイケ〉〈高野本〉で基幹語彙に入らず2ランク以上離れているのは、「ところで」である。

「ところで」接続助詞

各作品の使用度数, 使用率, ランク

〈エ〉44 5.70% (K 3) 〈へ〉61 1.90% (B) 〈高〉0 不使用

「ところで」も『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』(付属語篇)には見出し項目が存在しない。そこで、「によつて」と同様に計量したところ、〈高野本〉の「ところで」の使用度数が1になり、(D)ランクに入った。「ところで」の場合、〈エソボ〉と〈ヘイケ〉の間だけでなく、〈ヘイケ〉と〈高野本〉の間にも隔たりがある。「ところで」は「によつて」に比べて後発で、室町時代末期には話し言葉でよく用いられていた。〈ヘイケ〉は口語訳に際して原拠の『平家物語』の文脈の影響を受けているが、〈エソボ〉は〈ヘイケ〉よりも室町時代末期の話し言葉を取り入れやすかったと考える。

以上をまとめると次のようになる。

- (a) 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉で基幹語彙に入る「を」「て」「も」などは鎌倉・室町時代を通して書き言葉としても話し言葉としても頻繁に用いられたものである。
- (b) 接続助詞的用法の「によつて」が室町時代末期に増加し、〈エソボ〉〈ヘイケ〉で基幹語彙に入った。
- (c) 起点・経由点を示すのに「から」が「より」と交替して増加し、〈エソボ〉〈ヘイケ〉で基幹語彙に入ったが、さらに〈エソボ〉には接続助詞の用法も見られる。
- (d) 「ところで」は「によつて」に比べて後発で、室町時代末期には話し言葉でよく用いられ、〈エソボ〉で基幹語彙に入った。

5 〈エソボ〉で基幹語彙でない助詞

5.1 使用率に2ランク以上の隔たりのある助詞

〈エソボ〉で基幹語彙に入らない助詞について、〈エソボ〉のランクと〈ヘイケ〉〈高野本〉のランクとの間に2ランク以上の隔りがあるかどうかを目安にして整理し、隔りのあるものを取り出した。なお、「など」と「なんど」は双方の使用度数を合計すると、〈エソボ〉10、〈ヘイケ〉143、〈高野本〉196になり、順に(B)(A)(A)ランクに入るので取り出さない。

- [1] 〈エソボ〉で(A)ランク～(C)ランク、〈ヘイケ〉〈高野本〉で上位
「こそ」「まで」「や」
- [2] 〈エソボ〉で(A)ランク～(C)ランク、〈ヘイケ〉〈高野本〉で下位
「な(禁止)」
- [3] 〈エソボ〉〈ヘイケ〉で(A)ランク～(C)ランク、〈高野本〉で上位
「とて」「して」
- [4] 〈エソボ〉〈高野本〉で(A)ランク～(C)ランク、〈ヘイケ〉で上位
「で(格助詞)」
- [5] 〈エソボ〉〈ヘイケ〉で(D)ランクか「不使用」、〈高野本〉で上位
「ばや」「あひだ」「だに」「つつ」「で(打消)」
「にして」「にて」「やらん」

〈エソボ〉が下位で〈ヘイケ〉〈高野本〉が上位にある[1]には、『平家物語』を話し言葉に翻訳するときに引き継いだ語群があがっている。このうちの「こそ」「まで」には、三作品で用法上の大きな相違が見られない。「こそ」は係り結びの崩壊した室町時代末期には話し言葉での使用が減少したが、^(注3)〈ヘイケ〉は原拠の『平家物語』の語法をかなり引き継いでいる。また、「まで」は範囲や到達点を具体的に記述することの多い『平家物語』で欠かせない助詞であり、〈ヘイケ〉で使用を減らすことがなかった。しかし、「や」には三作品で用法上の相違が見られるので後に述べる。

〈エソボ〉〈ヘイケ〉が下位で〈高野本〉が上位にある[3][5]には時代の変遷を反映する語群があがっている。鎌倉時代に比べて室町時代末期の話し言葉で減少したり、ほとんど用いられなくなったりしたものである。

ところで、〈エソボ〉が上位で〈ヘイケ〉〈高野本〉が下位にある[2]、また、〈エソボ〉〈高野本〉が上位で〈ヘイケ〉が下位にある[4]はどのように考えたらよいのだろうか。[1]の「や」、[4]の「で(格助詞)」についてはこの節で、[2]の「な(禁止)」については次の節で考察する。

「や」係助詞

助詞「や」を機能によって分類し、使用度数・使用率を示すと次のようである。

表 8 助詞「や」の機能による分類

作品 ランク	係助詞	終助詞	間投助詞	並立助詞	計
	使用度数 使用率 %	使用度数 使用率 %	使用度数 使用率 %	使用度数 使用率 %	使用度数 使用率 %
〈エソボ〉 (C)	1 0.13	1 0.13	3 0.39	2 0.26	7 0.91
〈ヘイケ〉 (A)	4 1 1.27	3 0.09	4 8 1.49	2 8 0.87	1 2 0 3.73
〈高野本〉 (K 2)	3 4 3 6.07	4 2 0.74	1 6 5 2.92	1 7 0.30	5 6 7 10.04

助詞「や」の〈エソボ〉の使用率は同じ時期に成立した〈ヘイケ〉と比べてきわめて少ない。係助詞の用法は1例のみである。

例2 ここを通るは、いつぞや対面した乗り馬ではないか？ (〈エ〉460-8)

この例は「馬と驢馬の事」の段で、驢馬から馬への会話文に見られる。「いつ」「ぞ」との結び付きが強く、「いつぞや」を一語の副詞として見出し項目を立てている国語辞典もあるが、三作品とも「や」を助詞として処置した。助詞「や」が〈高野本〉で(K 2)ランクの基幹語彙になっているのに〈ヘイケ〉で使用率が(A)ランクと低くなっていることに関して、近藤(2002)では〈ヘイケ〉の終助詞「か」が〈高野本〉の係助詞「や」と対応する例が目立つことと関連していると指摘した。三作品の助詞「や」の使用状況を見ると、次のことが指摘できる。室町時代末期の話言葉では「や」は係助詞の用法が衰退し、間投助詞の用法よりも少なくなった。それでも〈ヘイケ〉は原拠の『平家物語』をかなり引き継ぎ、係助詞の用法を残している。

「で」格助詞

各作品の使用度数, 使用率, ランク

「で」格助詞

〈エ〉32 4.14% (A) 〈へ〉363 11.29% (K 2) 〈高〉198 3.51% (A)

「にて」格助詞

〈エ〉 0 不使用 〈ヘ〉 6 0.19% (D) 〈高〉 356 6.30% (K 3)

格助詞「で」に関して、近藤(2002)で〈ヘイケ〉の「で」が〈高野本〉の「で」「にて」に対応することが多く、そのことが〈ヘイケ〉〈高野本〉の「で」の使用率に大差をつけたと指摘している。『平家物語』は場所・時、手段・方法などを記述することが多い。その場合に〈高野本〉では「で」を用いることもあったが、主として「にて」を用い、〈ヘイケ〉では「で」を用いたと考えられる。〈エソボ〉は『平家物語』ほどに場所・時、手段・方法などを記述しない。「で」が[4]にあがったのは、「にて」との関係では「にて」の音韻変化形の「で」の使用が室町時代末期に増加したことから、作品が場所・時、手段・方法などをよく記述するものであるかどうかということに起因する。

〈エソボ〉で基幹語彙に入らない助詞について、〈エソボ〉のランクと〈ヘイケ〉〈高野本〉のランクとの間に2ランク以上の隔りがあるものを取り出して特徴を述べてきたが、個別に取り上げた助詞についてまとめると次のようになる。

(a) 助詞「や」の〈エソボ〉の使用率は同じ時期に成立した〈ヘイケ〉と比べてきわめて少ない。室町時代末期の話し言葉では「や」は係助詞の用法が衰退し、間投助詞の用法よりも少なくなった。それでも〈ヘイケ〉は原拠の『平家物語』をかなり引き継ぎ、係助詞の用法を残している。

(b) 格助詞「で」の〈エソボ〉の使用率は同じ時期に成立した〈ヘイケ〉と比べてはるかに少ないが、〈高野本〉と近い数値になった。これは「にて」との関係では「にて」の音韻変化形の「で」の使用が室町時代末期に増加したことから、作品が場所・時、手段・方法などをよく記述するものであるかどうかということに起因する。

5.2 〈エソボ〉で(A)ランク～(C)ランク、〈ヘイケ〉〈高野本〉で下位の助詞

「な(禁止)」終助詞

各作品の使用度数, 使用率, ランク

〈エ〉 27 3.50% (A) 〈ヘ〉 34 1.06% (C) 〈高〉 43 0.76% (C)

〈エソボ〉には禁止の意味を表す文末表現として、終助詞「な」のほかに終助詞「そ」、副詞「な」と終助詞「そ」が呼応する「な…そ」、形容詞の命令形「なかれ」が見られる。終助詞「な」は「な…そ」とともに訓点資料には見られず、「な…そ」よりも直接的でき

びしい表現といわれる。平安時代には男性が目下の者に対して用い、女性は「な…そ」を用いた。以下、これらの禁止表現も範囲に入れて終助詞「な」について考察していく。
 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉におけるこれらの表現の使用度数は次のようである。

表9 〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉の禁止の文末表現

表現	な	そ	な…そ	なかれ	計
〈エソボ〉	27 (3.49% A)	1	1	1	30
〈ヘイケ〉	34 (1.06% C)	0	16	0	50
〈高野本〉	43 (0.76% C)	0	24	7	74

上記の表の使用度数1を助詞の場合の使用率と同等に仮定すると、〈エソボ〉の使用度数の計30の使用率は約3.9、〈ヘイケ〉の50は約1.6、〈高野本〉の74は約1.3パーミルになる。終助詞「な」とは異なる文末表現「そ」「な…そ」「なかれ」を合わせても〈ヘイケ〉〈高野本〉と比較して〈エソボ〉の禁止表現は多いといえる。

〈エソボ〉の終助詞「な」は「エソボ養子に教訓の条々」の段に8例、「下心」に8例、会話の中に11例ある。「エソボ養子に教訓の条々」の段では、エソボが終助詞「な」と命令形を駆使して、養子に教訓を述べていく。「下心」ではその寓話の内容から導き出される教訓が簡潔にまとめてある。「エソボ養子に教訓の条々」の段、および「下心」の終助詞「な」は行為を禁じる形で教訓を表すために用いられている。以下に少し長くなるが、「エソボ養子に教訓の条々」の段から引用する。〈エソボ〉に1例のみの「なかれ」もこの教訓の中に現れる。

例3 慳貪放逸な者を友にすな。悪人の威勢富貴を羨むな。道理の上からでない時は、富貴はかへつて成りさがる基ぞ。わが言はうずる言葉を押しとどめて、他人の言ふことを聞け。言語によこしまなかれといふ轡を常に含め。(〈エ〉438-7・8・11)
 次に「下心」の中の例をあげる。

例4 平生不和な者の、難儀を救はうといふことはあるまじい。いささかもその言葉を信ずるな。(〈エ〉456-20)

会話の中に現れる終助詞「な」11例のうち6例は尊敬語とともに用いられている。

例5 所詮この黄金をばシャントも取らせられな。(〈エ〉420-4)

例6 また妻とも思はせらるるな。(〈エ〉422-10)

前者はエソボから主人のシャントへの会話に現れたものである。活用語の未然形(また

は連用形)に「な」が付いており、このような接続のものが〈エソボ〉に2例見られる^{〔注5〕}。後者は女性の会話に現れたもので、妻が夫のシャントに対して憤慨している場面での使用である。

会話の中に現れる終助詞「な」のうち尊敬語を伴わないものに、行為を禁じる形で教訓を表すものがある。

例7 かの獣の、我に教訓をないた。それを何ぞといふに、『汝向後御身のやうに、大事に臨うで見放さうずる者と、知音すな』と。 (〈エ〉471-7)

二人連れの一人からもう一人への会話に現れたものである。

〈エソボ〉に1例のみ見られる終助詞「そ」は、エソボからシャントへの会話の中で尊敬語とともに用いられている。

例8 少しもご気遣ひあられそ。 (〈エ〉424-10)

〈エソボ〉に1例のみ見られる「な…そ」は「下心」に現れる。

例9 人は威勢の盛んなとて、他をばな卑しめそ。 (〈エ〉460-14)

このように〈エソボ〉の禁止表現は行為を禁じる形で教訓を表す場合が多い。終助詞「な」は教訓性の高い〈エソボ〉という作品の内容を反映する助詞である。

以上をまとめると次のようになる。

- (a) 〈エソボ〉の禁止表現は〈ヘイケ〉〈高野本〉と比較して高率である。〈エソボ〉の終助詞「な」の多くは行為を禁じる形で教訓を表すために用いられる。終助詞「な」は教訓性の高い〈エソボ〉という作品の内容を反映する助詞である。

6 おわりに

天草版『エソボのハプラス』の助詞の語彙に関して、作品の語彙全部における助詞の語彙量、共時・通時的視点での助詞の存否、基幹語彙となる助詞の特色を考察してきた。それを振り返って以下にまとめて記述する。

- (a) 作品の規模と助詞の使用との関係で〈エソボ〉の助詞を〈ヘイケ〉〈高野本〉と比較した。使用率の面で〈エソボ〉は〈ヘイケ〉と同じ程度に助詞を使用しているが、〈高野本〉に比べて助詞の使用量が増加している。これは日本語の変遷の中で鎌倉・室町時代に助詞の使用が増えたことを反映している。また、〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉では作品の規模と自立語の使用に相関関係があり、〈エソボ〉は〈ヘイケ〉〈高野本〉に比べて助動詞の使用が少ないことが確認できた。
- (b) 〈エソボ〉に存する助詞を〈ヘイケ〉〈高野本〉[学研古語][三省古語]と比較した。「けれども」のように〈エソボ〉にのみ存し、〈ヘイケ〉〈高野本〉と[学研

古語〔三省古語〕の巻末付録の一覧表および本文に存しない助詞、「いで」のように〈エソボ〉〈ヘイケ〉には存するが、〈高野本〉と〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表に存しない助詞は、室町時代末期の口語的文脈で用いられた語群である。〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉に共通に存する助詞は、鎌倉時代から室町時代末期にかけて用いられた語群である。その中でも「て」「に」のように〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表に存するものは、平安時代から用いられていた語群である。「し」「で（打消）」のように、〈ヘイケ〉〈高野本〉と〔学研古語〕〔三省古語〕の巻末付録の一覧表には存するのに〈エソボ〉に存しない助詞は、室町時代末期の口語的文脈で用いられなくなった語群である。

(c) 助詞の使用率の高低によって基準を設定し、基幹語彙を抽出した。〈エソボ〉の助詞の基幹語彙として使用率5.00パーミル以上の「を」「て」「の」など19語を認定した。これらは助詞全体の950パーミルに相当し、〈エソボ〉という作品の骨格的部分にあたる語群である。〈エソボ〉〈ヘイケ〉〈高野本〉で基幹語彙に入る「を」「て」「も」などは、鎌倉・室町時代を通して書き言葉としても話し言葉としても頻繁に用いられたものである。〈エソボ〉〈ヘイケ〉で基幹語彙に入る接続助詞的用法の「によつて」は、室町時代末期に増加したものである。〈エソボ〉〈ヘイケ〉で基幹語彙に入る「から」は「より」と交替して増加し、起点・経由点を示すが、〈エソボ〉には接続助詞の用法も見られる。〈エソボ〉でのみ基幹語彙に入る「ところで」は「によつて」に比べて後発で、室町時代末期には話し言葉でよく用いられたものである。

(d) 〈エソボ〉で基幹語彙に入らない助詞の中から、〈エソボ〉のランクと〈ヘイケ〉〈高野本〉のランクとの間に2ランク以上の隔りがあるものを取り出した。その中でも「や」「で（格助詞）」「な（禁止）」には際立つ特徴が見られる。

「や」の〈エソボ〉の使用率は同じ時期に成立した〈ヘイケ〉と比べてきわめて少ない。室町時代末期の話し言葉では「や」は係助詞の用法が衰退し、間投助詞の用法よりも少なくなった。それでも〈ヘイケ〉は原拠の『平家物語』をかなり引き継ぎ、係助詞の用法を残している。

格助詞「で」の〈エソボ〉の使用率は同じ時期に成立した〈ヘイケ〉と比べてはるかに少ないが、〈高野本〉と近い数値になった。これは「にて」との関係では「にて」の音韻変化形の「で」の使用が室町時代末期に増加したこと、作品が場所・時、手段・方法などをよく記述するものであるかどうかということに起因する。〈エソボ〉の禁止表現は〈ヘイケ〉〈高野本〉と比較して高率である。〈エソボ〉の終助詞「な」の多くは行為を禁じる形で教訓を表すために用いられる。終助詞「な」

は教訓性の高い〈エソポ〉という作品の内容を反映する助詞である。

〈注記〉

- 注1 形式名詞「あひだ」「うへ」は自立語と付属語（助詞）と二重に計量している。
- 注2 林（1971）は基本語彙をめぐって五つの概念を立て、その一つとして基幹語彙（ある語集団の基幹部として存在する語彙）という概念を提案した。真田（1977）は基本語彙および基礎語彙に関する概念を整理して基本語彙・基幹語彙・基礎語彙の三つの概念をまとめ、基幹語彙の定義を、ある特定語集団を対象としての語彙調査から直接に得られる、その語集団の骨格的部分集団とした。
- 注3 近藤（2002）では〈ヘイケ〉と〈高野本〉を対応させ、〈高野本〉に「こそ」が存するのに、〈ヘイケ〉で他の語句が対応したり、〈ヘイケ〉で対応する語句が存しなかったりする現象から、室町時代末期の話し言葉から係助詞「こそ」の使用が衰退したことを指摘している。
- 注4 『日本国語大辞典 第二版』（小学館）・『広辞苑 第五版』（岩波書店）などは「いっぞや」の見出し項目を立てて副詞とし、[学研古語]は「いっぞや」を連語としている。『古典対照語い表』（笠間書院、三版1992年）には項目がない。
- 注5 「な」の接続に二形が見られることに関して、大塚（1983）の補注23に「口語の下二段語にあっては（イ）（著者注、未然形+ナの型を指す）のものが早くあらわれ、やがて（ロ）（著者注、連体形+ナの型を指す）の混在、そして（ロ）の優勢へと変化したものと推定される。」「（イ）は（ロ）とくらべ、極端に使用がすくなかったのではない。」「エソポのも当時の実情を反映しているもの」という判断が示してある。

〈文献〉

- 大塚光信（1983）『キリシタン版エソポのハプラス私注』 臨川書店発行
- 大塚光信・来田隆（1999）『エソポのハプラス本文と総索引』 清文堂出版発行
- 梶原正昭・山下宏明校注（上一1991、下一1993）新日本古典文学大系『平家物語』上下
岩波書店発行
- 金田一春彦監修（1999）『完訳用例古語辞典』初版 学習研究社発行
- 小松英雄ほか（1992）『例解古語辞典〔第三版〕』三省堂発行
- 近藤政美・武山隆昭・近藤三佐子（1996）『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』（自立
語篇） 勉誠社発行

- 近藤政美・武山隆昭・池村奈代美・濱千代いづみ・近藤三佐子（1998）『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』（付属語篇） 勉誠社発行
- 近藤政美・池村奈代美・濱千代いづみ（1999）『天草版平家物語語彙用例総索引』 勉誠出版発行
- 近藤政美（2002）「天草版『平家物語』における助詞の基幹語彙について—『平家物語』〈高野本〉との比較を中心に—」『岐阜聖徳学園大学紀要〈教育学部編〉』第41集
- 真田信治（1977）「基本語彙・基礎語彙」岩波講座『日本語』9（語彙と意味） 岩波書店発行
- 濱千代いづみ（2009）「天草版『エソポのハプラス』の助動詞の語彙—国字本『伊曾保物語』・天草版『平家物語』との比較を通して—」『岐阜聖徳学園大学国語国文学』第28号
- 濱千代いづみ（2011）「天草版『エソポのハプラス』・天草版『平家物語』の語彙の豊富さ，類似度，偏り」『岐阜聖徳学園大学紀要〈教育学部編〉』第50集
- 濱千代いづみ（2011）「天草版『エソポのハプラス』の語彙の特色—基幹語彙の視点で天草版『平家物語』・『平家物語』〈高野本〉と比較する—」『岐阜聖徳学園大学国語国文学』第30号
- 林四郎（1971）「語彙調査と基本語彙」『電子計算機による国語研究 III』国研報告39 秀英出版発行
- 松村明編（1971）『日本文法大辞典』 明治書院発行